別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

2026 年　8 月　28 日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　馬瀬泰美　印
所　属　心臓血管外科
職　名　医師

受付番号　ER2026-65　（※事務局で記入）

所属長の印	

1　審査対象　＊何れかに○を付けてください。
1）実施計画
2）出版・公表予定原稿（発表予定日：　年　月　日）

2　課題名　＊未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
外科的大動脈弁置換術、経皮的大動脈弁置換術の 10 年の変遷

3　研究代表者名　＊多機関共同研究に参加する場合、各研究機関の研究責任者を代表する研究責任者をご記載ください。

4　当院研究責任者名
心臓血管外科　医師　馬瀬泰美

5　当院研究分担者名
心臓血管外科医師、循環器内科医師

6　研究等の概要　＊研究等の内容についてご記載ください。

外科的大動脈弁置換（SAVR）、経皮的大動脈弁置換（TAVI）
ICU/HCU、病棟での術後管理
外来通院

7　研究等の対象及び実施場所　＊研究対象者・データ等についてご記載ください。

SAVR、TAVI 患者。
手術室、アンギオ室、ICU/HCU、病棟、外来

注意事項　審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。
~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

8　研究等における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴ~~Ⅳ~~は必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護
　　データ管理を万全にし、十分注意を払います。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法
※いずれかを○で囲んでください。アンケートの回答をもって同意を得る場合は、書面による同意を選択ください。

①オプトアウト[1]　　TAVI
②書面による同意　　SAVR　　＊同意書のひな型を添付ください。
③その他（　　）

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性
　　不利益はないと考えます。

Ⅳ　予測される医学上の貢献
外科的大動脈弁置換（SAVR）、経皮的大動脈弁置換（TAVI）の当院での 10 年の術後 outcome を検討することにより、今後の SAVR、TAVI の成績向上に寄与する者と考えます。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）　＊未定の場合は見込みを記入すること
研究期間：　2016 年から 2025 年まで
症例数等：　SAVR（290 例）、TAVI（473 例）

1 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

R8年　9月　8日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　濱口　真徳　印
所　属　薬剤部
職　名　薬剤師

受付番号 ER2026-66　（※事務局で記入）

所属長の印	三宅知宏

1　審査対象　＊何れかに○を付けてください。
（1）実施計画
2）出版・公表予定原稿　（発表予定日：　年　月　日）

2　課題名　＊未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
当院における「投与時閉鎖式接続器具使用加算」の算定状況と課題（仮）

3　研究代表者名　＊多機関共同研究に参加する場合、各研究機関の研究責任者を代表する研究責任者をご記載ください。

4　当院研究責任者名
氏名：濱口　真徳　所属：薬剤部　職名：薬剤師

5　当院研究分担者名
氏名：小川　晃宏　所属：薬剤部　職名：薬剤師

6　研究等の概要　＊研究等の内容についてご記載ください。
令和８年度の診療報酬改定において、投与時閉鎖式接続器具使用加算が算定可能となった。当院における同加算の算定状況などを評価し、今後の課題について検討する。

7　研究等の対象及び実施場所　＊研究対象者・データ等についてご記載ください。
当院における投与時閉鎖式接続器具使用加算および無菌製剤処理料１イの算定件数。

注意事項　審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。
~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

8　研究等における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴ~~Ⅳ~~は必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護
算定件数を研究対象としているため、個人を特定できる研究ではない。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法
※いずれかを○で囲んでください。アンケートの回答をもって同意を得る場合は、書面による同意を選択ください。
①オプトアウト[1]
②書面による同意　　＊同意書のひな型を添付ください。
③その他（　　）

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性
なし

Ⅳ　予測される医学上の貢献
投与時閉鎖式接続器具使用加算の算定割合を把握することで、医療従事者の抗がん薬曝露リスク軽減に繋がる。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）　＊未定の場合は見込みを記入すること
研究期間：令和３年４月～令和８年８月
症例数等：

[1] 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

2026 年　　9 月　　14 日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　藤原　一輝
所　属　放射線技術課
職　名　診療放射線技師

受付番号 ER2026-67　（※事務局で記入）

所属長の印	

1　審査対象　＊何れかに○を付けてください。
（1）実施計画
2）出版・公表予定原稿　（発表予定日：　年　月　日）

2　課題名　＊未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
EV-ICD デバイス位置決定に向けた心室後壁と食道および椎体の位置関係の検討（仮）

3　研究代表者名　＊多機関共同研究に参加する場合、各研究機関の研究責任者を代表する研究責任者をご記載ください。

4　当院研究責任者名
氏名：藤原　一輝　　所属：放射線技術課　　職名：診療放射線技師

5　当院研究分担者名
氏名：坂部　茂俊　　所属：循環器内科　　職名：医師

6　研究等の概要　＊研究等の内容についてご記載ください。
EV-ICD のデバイス位置決定には、アンギオ透視下側面画像における心室後壁の位置を把握することが重要である。そこで、透視下で確認可能な食道や椎体をランドマークとして心室後壁の位置を推定することに着目した。本研究では、心室後壁と食道および椎体の位置関係を CT 画像上で評価し、これらをランドマークとした心室後壁位置推定の可能性について検討を行う。

7　研究等の対象及び実施場所　＊研究対象者・データ等についてご記載ください。
2025 年 1 月から 2026 年 9 月までの間に当院で CT を撮影した 150 症例を対象とする。
画像処理装置には当院の SYNAPSE VINCENT(Fuji Film)を使用し、当院の CT 室にて計測を実施する。

注意事項　審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。
~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

8　研究等における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴ~~Ⅳ~~は必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護
・個人が特定される情報の開示は致しません。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法
※いずれかを○で囲んでください。アンケートの回答をもって同意を得る場合は、書面による同意を選択ください。
①オプトアウト[1]
②書面による同意　　＊同意書のひな型を添付ください。
③その他（　　）

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性
・特にありません。

Ⅳ　予測される医学上の貢献
EV-ICD 埋込み時の心室後壁位置を推定するための解剖学的ランドマークに関する基礎的知見を提供し、アンギオ透視下におけるデバイス位置決定の客観化・再現性向上につながる可能性がある。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）　＊未定の場合は見込みを記入すること
研究期間：2026 年 8 月～2027 年 8 月
症例数等：150 例

[1] 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

令和８年 9月 14日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　佐藤 啓太　印
所　属　伊勢赤十字病院 外科
職　名　客員研究員

受付番号　ER2026-68　（※事務局で記入）

所属長の印	高橋幸二

1　審査対象　○1）実施計画

2　課題名

鼠径ヘルニア手術における不可視神経危険領域予測 AI 手術ナビゲーションの開発
―AMED 医工連携・人工知能実装研究事業の一環として―

3　研究代表者名

佐藤 啓太（伊勢赤十字病院 外科　客員研究員）
現所属：埼玉医科大学国際医療センター 上部消化管外科　助教

4　当院研究責任者名

氏名：佐藤 啓太　　所属：伊勢赤十字病院 外科　　職名：客員研究員

5　当院研究分担者名

氏名：高橋 幸二　　所属：伊勢赤十字病院　　職名：副院長

6　研究等の概要

本研究は、2024 年 12 月 1 日から 2026 年 8 月 31 日までに通常診療として保存された成人の腹腔鏡下鼠径ヘルニア修復術（TAPP）動画を二次利用する、多機関共同の後ろ向き非介入研究である。伊勢赤十字病院で直接識別情報を削除した研究用作業動画を作成し、Jmees 用分析 ID を付して株式会社 Jmees へ直接提供する。Jmees は患者対応表を受領せず、動画を用いて場面抽出、アノテーション、品質確認、特徴量生成、AI モデルの学習・検証・性能評価を行う。埼玉医科大学国際医療センターは研究デザイン、医学的妥当性、評価方法および派生データ・集約結果の解析・解釈を担当する。研究目的の追加撮影、検査、処置または治療変更は行わず、開発段階の AI を診療判断には使用しない。

7　研究等の対象及び実施場所

対象は、2024 年 12 月 1 日から 2026 年 8 月 31 日までに伊勢赤十字病院で 18 歳以上の成人に実施された選択的・初発 TAPP 症例のうち、通常診療として手術動画が撮影・保存されている症例とする。再発、緊急手術、嵌頓・絞扼例および 18 歳未満を除外する。予定 100 例、最大 400 例。原動画・患者対応表・ID 変換表は伊勢赤十字病院で保管する。直接識別情報削除済み作業動画は株式会社 Jmees で保管・解析する。埼玉医科大学国際医療センターは原則として動画を保有せず、必要な派生データ・集約結果を用いて共同解析する。

注意事項

審査対象となる研究計画書、情報公開文書およびデータ管理・機関間移送計画書を添付する。

8　研究等における医学倫理的配慮について

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護

本研究は既存情報のみを用いる後ろ向き非介入研究であり、追加の侵襲・検査・撮影・治療変更を行わない。伊勢赤十字病院で原動画から氏名、患者番号、生年月日、手術日時、画面上の患者情報、術者名、音声等の直接識別情報を削除し、Jmees 用分析 ID を付した研究用作業動画を作成する。患者対応表および ID 変換表は伊勢赤十字病院から持ち出さない。作業動画は両機関が承認した暗号化手段で株式会社 Jmees へ提供し、Jmees ではアクセス権限、保管・操作・消去記録を管理する。再識別、目的外利用および承認のない第三者提供を禁止し、研究成果は個人が特定されない形で公表する。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

①オプトアウト

通常診療で既に取得された情報のみを利用するため、個別の書面同意は取得せず、伊勢赤十字病院ホームページ等で情報公開し、研究利用を拒否する機会を保障する。公開文書には、株式会社 Jmees へ直接識別情報削除済み作業動画を提供すること、Jmees での保管・AI 解析、埼玉医科大学国際医療センターの役割、薬事申請・製品開発への利用可能性、個人情報管理、拒否方法および問い合わせ窓口を明示する。拒否による診療上の不利益はない。拒否時は Jmees 用分析 ID で該当データを特定し、対応可能な作業動画・派生データを除外・削除する。

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性

身体的侵襲、追加の麻酔・手術リスク、追加検査および追加費用は生じない。主な不利益は、手術動画を株式会社 Jmees へ機関間提供し保管・解析することに伴う情報漏えいとプライバシー侵害である。直接識別情報の削除、患者対応表・ID 変換表の院外非移送、Jmees 用分析 ID、暗号化、アクセス制限、移送・アクセス・消去記録、データ最小化、再識別・目的外利用・承認のない第三者提供の禁止によりリスクを低減する。

Ⅳ　予測される医学上の貢献

神経を直接視認できない状況で神経損傷危険領域を予測する AI を開発できれば、将来的に TAPP における神経損傷および慢性術後鼠径部痛の低減、手術安全性の向上、教育の標準化に寄与する可能性がある。得られた成果は AMED 研究開発課題におけるプログラム医療機器の性能評価、薬事申請および社会実装に用いる。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）

研究期間：2026 年 9 月 1 日以降の必要な各研究機関の実施許可取得日から 2032 年 3 月 31 日まで。データ対象期間：2024 年 12 月 1 日から 2026 年 8 月 31 日まで。症例数：予定 100 例、最大 400 例。承認後の新規症例は登録しない。原動画・患者対応表・ID 変換表は伊勢赤十字病院で研究終了後 5 年間保管する。株式会社 Jmees の研究用作業動画は解析に必要な期間のみ保管し、遅くとも研究終了後 3 か月以内に復元不能な方法で消去して記録する。特徴量、アノテーション、学習済みモデル等は共同研究契約および AMED データマネジメントプランに従う。研究費は AMED 研究費から伊勢赤十字病院へ 3,000 千円を配分する。

※オプトアウト：患者への侵襲がなく、個人が特定されないよう配慮して実施する研究について、病院ホームページ等で研究内容を公開し、研究への不参加を申し出る機会を保障する方法。

別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

2026 年　9 月　14 日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　伊藤　伸太郎
所　属　放射線技術課
職　名　診療放射線技師

受付番号 EP2026-69　（※事務局で記入）

所属長の印	

1　審査対象　＊何れかに○を付けてください。
　1）実施計画
　2）出版・公表予定原稿（発表予定日：　2027 年　11 月）

2　課題名　＊未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
書籍「診療放射線技師のための画像診断技術学（仮）」（株式会社　Gakken 発行予定）掲載用症例画像の後方視的利用について

3　研究代表者名　＊多機関共同研究に参加する場合、各研究機関の研究責任者を代表する研究責任者をご記載ください。
　氏名：郡　倫一　　所属：新潟医療福祉大学　　職名：教員

4　当院研究責任者名
　氏名：伊藤　伸太郎　　所属：放射線技術課　　職名：診療放射線技師

5　当院研究分担者名
　氏名：　　所属：　　職名：

6　研究等の概要　＊研究等の内容についてご記載ください。
　教科書「診療放射線技師のための画像診断技術学（仮）」（株式会社　Gakken 発行予定、編者：新潟医療福祉大学　郡　倫一先生）の執筆にあたり、申請者が担当する頭頸部領域。婦人科領域の疾患項目について、当院で既に撮影・保存されている診療用 CT/MRI 画像（後方視的データ）を教育用図表として同書籍に掲載するため、二次利用する。新たな検査・撮影は行わない。
【執筆担当疾患】
　上顎洞癌、舌癌、咽頭癌、喉頭癌、唾液腺腫瘍、甲状腺腫瘍、バセドウ病、バセドウ眼症、扁桃周囲膿瘍・咽後膿瘍、唾石、齲歯、頸部プラーク、子宮筋腫、子宮頚癌、子宮体癌、子宮腺筋症　等、計 17 項目に該当する既存の検査症例
該当症例について、DICOM 画像から個人情報を削除したうえで、画像抽出を行う。

7　研究等の対象及び実施場所　＊研究対象者・データ等についてご記載ください。
対象：
　申請者が執筆を担当する疾患（頭頸部領域 13 項目、婦人科領域 4 項目）に該当する画像データ
実施場所：
伊勢赤十字病院　医療技術部　放射線技術課

注意事項　審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。
　~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

8　研究等における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴ~~Ⅳ~~は必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護

利用する画像データは、個人を特定できる情報を削除し、データの数値化、データファイルの暗号化などの厳格な対策を取り、第三者が個人情報を閲覧できることができないようにする。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法

※いずれかを○で囲んでください。アンケートの回答をもって同意を得る場合は、書面による同意を選択ください。

①オプトアウト[1]

②書面による同意　　＊同意書のひな型を添付ください。

③その他（　　）

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性

既に診療目的で撮影された画像の後方視的な二次利用であり、患者さんに新たに検査・処置を行うものではないため、身体的な不利益・危険性はない。個人情報漏洩のリスクについては、画像の匿名化処理を徹底することで対応する。

Ⅳ　予測される医学上の貢献

全国の診療放射線技師養成校学生および若手技師向けの教科書に、実際の症例画像に基づいたわかりやすい解説を掲載することで、画像診断技術に関する教育の質向上に寄与する。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）　＊未定の場合は見込みを記入すること

研究期間：　承認日　から　2027年11月

症例数等：　疾患ごとに必要症例数（担当疾患17項目）

---

[1] 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院HP上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度

別記第１号様式（第６条関係）

倫　理　審　査　申　請　書

2026 年　　9 月　　16 日提出

伊勢赤十字病院
倫理委員会倫理委員長　殿

申請者　　中西　健太　印
所　属　　放射線技術課
職　名　　診療放射線技師

受付番号 ER2026 - 72　（※事務局で記入）

所属長の印	釜谷

1　審査対象　　＊何れかに○を付けてください。
（1）実施計画
2）出版・公表予定原稿　（発表予定日：　　年　　月　　日）

2　課題名　　＊未定の場合も「～（仮）」として記載ください。
腰椎 CT 画像におけるテクスチャ解析指標と DEXA-TBS との関係性の検討

3　研究代表者名　＊多機関共同研究に参加する場合、各研究機関の研究責任者を代表する研究責任者をご記載ください。

4　当院研究責任者名
氏名：中西　健太　　所属：放射線技術課　職名：診療放射線技師

5　当院研究分担者名
氏名：　　所属：　　職名：

6　研究等の概要　　＊研究等の内容についてご記載ください。

本研究は、腰椎 CT 画像から得られる画像テクスチャ解析指標と DEXA から得られる Trabecular Bone Score（TBS）との関係性を検討することを目的とする。

腰椎 CT 画像より椎体海綿骨領域の平均 CT 値、標準偏差（SD）、エントロピー等の指標を算出し、DEXA から得られる TBS との相関を解析する。また年齢や性別等の臨床的因子を考慮し、各 CT 指標と TBS の関係性を評価する。

本研究により、CT 画像から得られる定量的な画像情報と骨微細構造を反映する TBS との関係を明らかにし、CT 画像を用いた骨質評価の可能性を検討する。

7　研究等の対象及び実施場所　＊研究対象者・データ等についてご記載ください。

当院において、診療目的で腰椎 CT 検査および腰椎 DEXA 検査の両方を実施した患者を対象とする。対象期間は 2024 年 11 月から 2026 年８月までとし、両検査のデータが取得可能な症例を対象とする。

本研究は後ろ向き観察研究として実施し、診療時に既に取得された CT 画像および DEXA 検査のデータを収集する。CT 画像解析には SYNAPSE VINCENT（Fuji Film）を使用し、腰椎椎体の海綿骨領域を対象に画像解析を行い、DEXA から得られる TBS との関係性を検討する。

研究は当院 CT 室で実施し、対象となる画像およびデータは当院研究責任者が収集、解析する。

注意事項　審査対象となる実施計画書又は出版公表原稿のコピーを添付して下さい。
~~審査対象欄は、非該当部分を消して下さい。~~

8　研究等における医学倫理的配慮について（Ⅰ～Ⅴ~~Ⅳ~~は必ず記載のこと）

Ⅰ　研究等の対象となる個人の人権の擁護
・個人が特定される情報の開示は致しません。

Ⅱ　研究等の対象となる者に理解を求め同意を得る方法
※いずれかを○で囲んでください。アンケートの回答をもって同意を得る場合は、書面による同意を選択ください。
①オプトアウト[1]
②書面による同意　　＊同意書のひな型を添付ください。
③その他（　　）

Ⅲ　研究等により生じる個人への不利益並びに危険性
・特にありません。

Ⅳ　予測される医学上の貢献
・腰椎 CT 画像のテクスチャ解析指標と TBS との関係性を明らかにできる可能性がある。
・CT 画像を用いた骨質評価の有用性を検討する基礎的資料となる。
・将来的な骨粗鬆症や脆弱性骨折リスクの評価に寄与する可能性がある。

Ⅴ　その他（研究期間、症例数等）　＊未定の場合は見込みを記入すること
研究期間：2026 年 10 月～2027 年 3 月
症例数等：約 200 例

[1] 患者への侵襲がなく、個人が特定されることのない方法で実施される研究については、病院 HP 上で研究名を公知し、研究への不参加の意思を病院あてに通知する窓口が整備されていることをもって、患者から同意を得たこととする制度